

1. インフラ整備について町の考え方を問う

本町の町道は、道幅が狭く通学の児童生徒の安全確保や救急車など緊急車両の通行にも支障がある。さらに道路や橋りょうの老朽化により、ひび割れやへこみで水たまりができるなど、歩行者や自転車の通行に十分な安全が確保されているとは言い難い。

また、子どもや高齢者・障がい者が安心して通行できる道路環境の整備は大変重要だと考える。

一方、河川においては、本町は町中に水路が巡り豊富な水が年間を通じて流れているというのは既に過去の事であり、田畠の宅地化により、町内の水路は農業用水路から雨水を流す排水路として使用されている。水路施設の老朽化も進み安全面や衛生面でも改善が必要と考える。

このような現状を踏まえ、道路や橋りょうの修繕、狭あいな道路の拡幅、また、大雨での氾濫による浸水被害防止と平常時の安全衛生環境の向上など、町民の身近な生活に大変重要な役割を果たす町道と河川などの整備は、町づくりの基盤であり人口が増加する町にとっては急務と考える。

今後の町道や河川など町民生活に直結したインフラ整備について町の考え方を問う。